

産業構造審議会 産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクルWG
中央環境審議会 循環型社会部会 自動車リサイクル専門委員会
第 48 回合同会議

議事要旨

日時：令和 2 年 8 月 19 日（水曜日）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：Web 会議

出席者：

村上座長（産構審）、酒井（伸）座長（中環審）、（以下五十音順）赤穂委員、荒居委員、井岡委員、入野委員、大塚委員、尾邊委員、織委員、上岡委員、鬼沢委員、木場委員、酒井（康）、佐藤委員、島委員、嶋村委員、高橋委員、所委員、根村委員、乗田委員、松八重委員、武藤委員、森谷委員、山田委員

議題：

1. 自動車リサイクル制度の評価・検討について
2. その他

議事概要：

議題 1. 自動車リサイクル制度の評価・検討について

事務局より資料 3 から資料 8 を用い、自動車リサイクル制度の現状、評価・検討における主な論点案、今後の進め方等を説明した後、自由討議が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・自動車リサイクルの質の高度化には、金属資源等を再資源化していく際の拡散、散逸等を最小にする視点も重要。
- ・ヒアリング対象に素材産業も加えるべき。
- ・自動車リサイクルシステムの大改修の時期が近い。聖域無しの議論を行うべき。
- ・ヤードと呼ばれる施設が急激に増えている。適正処理、リサイクルの高度化の観点からは今の状況ではまずいのではないか。
- ・中古車輸出において古い年式の車の割合が増加。国内で処理する使用済自動車の減少は、自動車リサイクル関係事業者に影響を与えるため、留意が必要。
- ・被災自動車のセーフティネットについて、自然災害が多発する中、現場の声を共有し、生かしていくべき。

- ・自動車リサイクルシステムの刷新について、利便性の向上とコスト削減が重要。リサイクル券の電子化について、国交省の検討している車検証の I Cチップ化についての議論と歩調を合わせることも考慮すべき。
- ・ A S R の削減について、マテリアルリサイクルの課題に対して設計段階から考える必要があり、何らかの数値目標を検討することも必要ではないか。
- ・自動車リサイクル士の取組をもっと広げていくことが必要。
- ・自動車リサイクルの今後の在り方を検討する上で、コロナ以降の世界の状況や次世代車に変わっていく状況を考慮するなど大きな視点が必要。また、SDGs との観点で検討していくことも重要。
- ・自動車リサイクル法の対象になっていないタイヤやバッテリーを含め、自動車リサイクル全体の在り方を検討してほしい。
- ・日本自動車輸入組合も日本自動車工業会が取り組んでいるリチウムイオン電池の共同回収スキームに参加すべき。

議題 2. その他

事務局より、次回の開催予定等のスケジュールを報告。

問合せ先：

経済産業省 製造産業局 自動車課（リサイクル担当）

電話：03-3501-1637

環境省 環境再生・資源循環局 総務課リサイクル推進室

電話：03-6205-4946